

道徳科事例 4

主題名 法やきまりの意義

中学校第2学年 C- (10) 遵法精神, 公德心

- 1 ねらい
法やきまりの意義について考えることを通して、法やきまりを遵守しようとする心情を育む。
- 2 教材名(出典) 「違反摘発」(教育出版「とびだそう未来へ 中学道徳2」)
- 3 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問 (○基本的な発問 ◎中心発問) ・予想される生徒の発言	□指導上の留意点 ◆評価の視点(方法)
導入	1 法やきまりについて考える ○きまりを守るのはなぜですか。 ・守らないといけないから。 ・みんなで決めたから。 ・怒られるから。 ○法やきまりがなければよいのと思ったことはありますか。 ・校則が厳しいと思ったとき、なくてもよいと思った。 ・ない。いつもきまりを守っているから、考えたことがない。	□最初の段階での法やきまりについての考えを全体で共有する。 □身近なきまり(校則や交通ルール等)を例として考えさせる。 □理由やきまりを守れなかった経験にも言及し、様々な法やきまりがあることを想起させる。
展開	2 教材の前半を読み、法やきまりについて考える。 ○あなたは法やきまりについて、どんなことを考えましたか。 ・違反したことは悪いが、特別な事情は考慮した方がよい。 ・命に関わるような事情だから、警察も考慮すべきだ。 ・20キロオーバーくらいなら、他にもいると思う。ずるい。 ・違反は違反だからどんな理由があってもダメ。 【生徒の気付きから考えられる補助発問例】 ・警察に捕まらなかったら、よかったのですか。 ・周りの人も守っていないのであれば、守らなくてもよいのでしょうか。 ・自分だったらどうしますか。 3 教材の後半を読み、法やきまりについて考える。 ○あなたは法やきまりについて、どんなことを考えましたか。 ・予測できないような事態が起こるかもしれない。自分も他の人も身の安全を守るためにも、きまりは守るべき。 ・特別な事情だからと言うと、ウソについて摘発から逃げる人がいるかもしれない。 ・親の死に目に会いたい気持ちと速度を守らないといけないという気持ちがあるから、どちらの言い分も分かる。 【生徒の気付きから考えられる補助発問例】 ◇事故が起きなかったら、よかったのですか。 ◇特別な場合をすべて考慮するのですか。 ◇身近なきまりだったらどうでしょうか。 ◎どんな場合でも、法やきまりは守るべきなのか。 <場合による> ・融通の利く方がよい。 ・人の気持ちに左右されるのは仕方ない。 <必ず守るべき> ・どんな事情があっても、左右されてはいけない。 ・みんなで気持ちよく生活するためには、きまりは守るべき。 ○法やきまりは、何のためにあるのでしょうか。 ・自分のため ・社会のため ・公正、公平のため ・弱い人を守るため	□範読中に、文中の気になったところに線を引かせ、必要に応じて近くの人と交流させる。 □違反摘発について同情的な意見を抽出し、投稿者の思いを考えられるようにする。 □規則を遵守すべきという考えを抽出し、特別な状況下での規則の遵守について考えを揺さぶる。 □問い返す中で、どちらの言い分も理解できるからこそ葛藤することに気付かせる。 □きまりを守ることが、自分も周りの人も大切にすることにつながることをおさえる。 ◆法やきまりを守ることについて、人間の弱さも含め、様々な立場で考えているか。(発言) □交通ルールに限らず、身近な法やきまりに置き換えて考えさせる。 □法やきまりを積極的に守ろうとする考えを深めさせる。 ◆法やきまりの意義について、様々な視点から考え自分事として捉えているか。(ワークシート)

終 末	<p>4 学んだことをワークシートにまとめる</p> <p>○今日の授業を通して、法やきまりの意義について考えたことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守ることが、みんなを守り自分を守ることにもつながると分かった。 ・自分の都合で、法やきまりを無視することはよくないと思った。人それぞれの事情や状況があるけど、特別な事情を全部受け入れるときまりがきまりとして成り立たないと思った。 	<p>□導入で生徒の発言から出た教材以外の身近な法やきまりの事例に触れ、考えさせる。</p> <p>□自分の生活に関わることを書いている生徒を抽出指名し、発言させる。</p> <p>◆法やきまりの意義について、身近な生活と照らし合わせながら、自分事として考えているか。(ワークシート)</p>
--------	---	--

4 評価の視点

- ・法やきまりの意義について、様々な視点から考えながら話し合い、自己の感じ方や考え方を深めていたか。
- ・法やきまりを遵守しようとする事について、身近な生活と照らし合わせながら、自分事として考えていたか。

ポイント① 補助的な発問の想定（問い返しや共有）

本時では、生徒の気付きによって補助発問や展開を変えていくように指導案を作成した。指導案に載っていない展開として「双方の立場の人数を確認すること」を行った。また展開の後半では「交通ルールに限らず、最初に言った廊下を走らないなどのきまりでも、同じことが言えそうか」と問い返した。

→生徒の気付きを基に授業を構成するためには授業者の力量が問われる。生徒の考えを可視化（板書の工夫）し、全体に共有する中で、ねらいに迫るような言葉を選択しながら問い返しを行う必要がある。本時では、生徒が問題状況を理解することに時間がかかり、指導案で考えていた補助発問は行えなかった。また、中心発問につながるような言葉を生徒から十分に引き出すことができず、唐突に中心発問が出てきているようだった。

生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子

第 4 回	<p>1 主題名 自らの行動に責任をもつのはなぜ大切か A-(1) 自主, 自律, 自由と責任</p> <p>2 教材名 「先輩」(教育出版「とびだそう未来へ 中学道徳2」)</p> <p>3 ねらい 自律的な行動について考えることを通して、これからの学校生活をしっかりと送ろうとする態度を育てる。</p>
<p><ワークシートの記述>自分も時々部活で叱られるけど、今度から同じことの内容にしっかりと、部活や生活面でもしっかりとできるようにがんばりたい。</p>	

第 8 回	<p>1 主題名 礼儀正しく生活していくために、必要な心構え B-(7) 礼儀</p> <p>2 教材名 「一枚のはがき」(教育出版「とびだそう未来へ 中学道徳2」)</p> <p>3 ねらい 叔父の手紙を読んだ主人公の気持ちを考えることを通して、礼儀正しく生活していくとしようとする心情を育てる。</p>
<p><ワークシートの記述>礼儀はとっても大事だと思った。これからはしっかりと礼などをしていきたい。あとこれらをしっかりと守っていきたいです。</p>	

第 15 回	<p>1 主題名 法やきまりの意義 C-(10) 遵法精神, 公徳心</p> <p>2 教材名 「違反摘発」(教育出版「とびだそう未来へ 中学道徳2」)</p> <p>3 ねらい 法やきまりの意義について考えることを通して、法やきまりを遵守しようとする心情を育む。</p>
<p><ワークシートの記述>授業する前はもういいやと思っていたけど、この授業で法やきまりの大切さを知れた。みんなが安全に暮らすために法やきまりはあるから、きちんと守ることが大切だと思った。</p> <p><エピソード記録>他の人の発言に対して頷いたり、メモをとったりする姿が見られた。他の人の意見を聞くことを通して、自分の考えを深めていった。</p>	

自分の考えを素直に発言したり、他の人の意見を聞いたりしながら、新たな気づきを得られるようになった。特に法やきまりの意義を考える授業では、友達の意見を聞くことで、法やきまりの大切さを新たに知り、きまりを守ることの大切さを自分の生活と照らし合わせながら考えていた。